

12 月速修コースプレセミナー

当セミナーでは「12 月速修コース」のカリキュラム内容、簿記論・財務諸表論での学習内容や同時学習のポイントなどお伝えしていきます。

1. 税理士試験の概要

①税理士試験全 11 科目

科目		学習時間のめやす
必須科目	簿記論	450時間
	財務諸表論	450時間
選択必須科目	所得税法	600時間
	法人税法	600時間
選択科目	相続税法	450時間
	消費税法	300時間
	酒税法	150時間
	固定資産税	250時間
	事業税	200時間
	住民税	200時間
	国税徴収法	150時間

5 科目合格
＝税理士有資格者

※税理士登録には「実務経験が2年以上」である必要があります

※学習時間の目安…TAC の講義時間を含みますが、理論暗記に要する時間は個人差があるため含めておりません。

○科目ごとに受験できる！

- ▶働きながら突破することが可能（上記の通り 1 科目 150~600 時間）
- ▶科目合格は生涯有効で、1 科目でも就職や転職時に好評価
- ▶税理士試験に初めてチャレンジされる方には、簿記論・財務諸表論の会計科目からの受験がオススメ（税法の学習時に会計の知識を活かせる）
- ▶簿記論（450 時間）・財務諸表論（450 時間）を同時学習する場合、科目間に共通項目が多いため、750 時間程度の学習時間に短縮できる

○簿記論・財務諸表論の学習には日商簿記 2 級商業簿記レベルの知識が必要です

- ▶簿記の学習が初めての方は「財務会計入門Ⅰ・Ⅱ」を学習することで、税理士試験の学習に必要な簿記の知識を習得できる

②近年の受験状況

簿記論、財務諸表論の受験結果は以下の通りです。

	平成23年	平成24年	平成25年	
簿記論	14.8	18.8	12.2	
	3,528	4,326	2,441	
	23,871	22,983	19,935	
財務諸表論	16.6	20.7	22.4	(%) / 合格率
	3,101	3,785	3,611	(人) / 合格者数
	18,650	18,246	16,137	(人) / 受験者数

税理士試験の合格基準は満点の 60%になりますが、平均合格率は 15%前後の競争試験です。それはどんなに難しい問題が出題されても、上位 15%前後は必ず合格することを意味します。

合格への鍵は、難しい問題を解き周囲と差をつけるのではなく、基本的な問題を着実に正解に導き点数を積み重ねていくことにあります。また、税理士試験は制限時間内に解き切れない問題量が出題されます。その中で自分が解くことができる問題を見抜く力も合格するためには必要です。

2. TAC「12月速修コース」

12	2015/1	2015/ 7
●	●	●
12月速修(初学者) 週1回 ※1月下旬までは週1回		
1月速修(初学者) 週2回		

★特長

- ・年末年始の忙しい時期は週に 1 回のペースで受講できる。
- ・学習当初は余裕を持って復習・トレーニング(問題集)ができる
- ・学習ペースをつかんできたところから、週 2 回の講義に切り替えられる
- ・教室講座と個別 DVD 講座で受講できるため、TAC に来校して集中して学習ができる

3. 簿記論の学習範囲

①本試験の出題範囲

複式簿記の原理、その記帳・計算及び帳簿組織、商業簿記のほか工業簿記を含む。
ただし、原価計算を除く。

②本試験問題

3 問形式ですべて計算問題が出題されます。第一問と第二問はそれぞれ学者試験委員（大学教授）が担当し、第三問は2名の実務家試験委員（税理士・公認会計士）が担当します。配点は、第一問・第二問がそれぞれ 25 点、第三問が 50 点の合計 100 点となっています。

③学習内容

簿記論では日商簿記検定の延長線上の学習で、仕訳を中心とした帳簿上の手続を学習していきます。

4. 財務諸表論の学習範囲

①本試験の出題範囲

会計原則、企業会計原則、企業会計の諸基準、会社法中計算等に関する規定、会社計算規則（ただし、特定の事業を行う会社についての特例を除く）、財務諸表等の用語・様式及び作成方法に関する規則、連結財務諸表の用語・様式及び作成方法に関する規則

②本試験問題

3 問形式で出題されます。第一問と第二問はそれぞれ学者試験委員（大学教授）が理論問題を担当し、第三問は2名の試験委員（税理士・公認会計士）が計算問題を担当します。配点は、第一問・第二問がそれぞれ 25 点、第三問が 50 点の合計 100 点となっています。

③学習内容

- ・ 計算

各論点の具体的な会計処理の習得（簿記論との相乗効果が認められる）
株主総会提出用の財務諸表の作成

- ・ 理論

「企業会計基準」の理解と暗記

※企業会計基準とは、会計処理や帳簿の記録をする際に、正しいとされる処理・記録方法についてまとめられているルールブックをいいます。

5. 簿記論と財務諸表論の学習内容の関連性

簿記論と財務諸表論（計算）で学習する会計処理や計算方法は全く同じであり、同時に学習すると学習内容が重複するため、学習時間を短縮できます。また、それぞれの科目で繰り返し同一の内容に触れることになるため、知識は定着しやすくなります。

さらに、財務諸表論（理論）でこれらの会計処理や表示を行う理由等について学習することで、各論点に関する理解が深まります。

6. 簿財あんしんサポートの活用

簿記論・財務諸表論から税理士受験をスタートされる方が多いため、この2科目については「学習のコツ」や「勉強時間の確保の方法」などを教える特別講義をWeb上で配信していきます。この動画を視聴すれば、早い段階で学習ペースをつかめます！

また、24時間対応の「質問メール」や平日21時まで「質問電話」を利用できます。仕事帰りや大学の終わりに学習していて分からない点が出てきても、安心して質問ができます。

7. 簿記論と財務諸表論の同時学習について

学習時間に応じて、2科目学習するかを判断してください。学習時間が限られている方は、1年目簿記論、2年目財務諸表論の順番で続けて学習してください。他の科目を2年目に学習する、または財務諸表論から学習することはオススメできません。

- | | |
|------------------------|-------------|
| A. 週25時間以上の学習時間が確保できる方 | ⇒ 簿記論＋財務諸表論 |
| B. 日商簿記1級レベルの知識をお持ちの方 | ⇒ 簿記論＋財務諸表論 |
| C. 上記A・Bにあてはまらない方 | ⇒ 簿記論 |

以上